

平成25年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	名古屋大学	機関番号	13901
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> <small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 <small>はまぐち みちなり</small> 濱口 道成 (名古屋大学総長)		
2. プログラム責任者	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 <small>たかはし まさひで</small> 高橋 雅英 (名古屋大学医学系研究科長・医学系研究科教授)		
3. プログラム コーディネーター	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 <small>つかむら ひろこ</small> 束村 博子 (名古屋大学総長補佐・男女共同参画室長・生命農学研究科教授)		
4. 申請類型	S <複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム	
	英語名称	Women Leaders Program to Promote Well-being in Asia	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(国際開発学)、博士(学術)、博士(教育学)、博士(農学)、博士(看護学)、博士(医療技術学)、博士(リハビリテーション療法学)、博士(医学) 付記する名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		
7. 主要分科	(① 社会医学) (② 教育学) (③ 社会経済農学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	環境創成学、地域研究、ジェンダー、社会学、看護学、文化学、公共政策		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オナーワシ型は太枠に主要な細目を記入		
	衛生学・公衆衛生、教育社会学、社会・開発農学、環境政策・環境社会システム、地域研究、ジェンダー、疫学・予防医学、地域看護学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	国際開発研究科全専攻、教育発達科学研究科全専攻、生命農学研究科(生物圏資源学専攻・生物機構機能科学専攻・生命技術科学専攻)、医学系研究科全専攻、農学国際教育協力研究センター、男女共同参画室		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			
外務省総合外交政策局国際機関人事センター、国際協力機構(JICA)、アジア開発銀行(ADB)、国連児童基金(UNICEF)東京事務所、国連人口基金(UNFPA)東京事務所、国連大学高等研究所、フィリピン大学、ルンド大学、カンボジア王立農業大学、公益財団法人 水と緑の惑星保全機構			

(機関名:名古屋大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 高橋 雅英	タカハシ マサヒデ	58	大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	実験病理学、 博士(医学)	プログラム全体の統括・運営
(プログラムコーディネーター) 束村 博子	ツカムラ ヒロコ	54	大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・教授	家畜繁殖学、 博士(農学)	プログラム実施に関する統括、企画委員会委員長
岡田 亜弥	オカダ アヤ	52	大学院国際開発研究科・国際開発専攻・教授	地域計画学、教育・人材開発論、 Ph. D	執行委員会、プログラム運営、国際連携
大橋 厚子	オハシ アツコ	56	大学院国際開発研究科・国際協力専攻・教授	東南アジア地域研究、 博士(文学)	プログラム運営、評価・質保証、フィールドワーク
宇佐見 晃一	ウサミ コウイチ	57	大学院国際開発研究科・国際開発専攻・教授	農村開発学、 博士(農学)	実践的教育、フィールドワーク
内田 綾子	ウチダ アヤコ	46	大学院国際開発研究科・国際コミュニケーション専攻・教授	歴史学、アメリカ研究、 博士(学術)	基盤教育
新海 尚子	シンカイ ナオコ	45	大学院国際開発研究科・国際開発専攻・准教授	国際経済学・開発経済学、 Ph. D	実践的教育、国際連携、インターンシップ
山田 肖子	ヤマダ ショウコ	44	大学院国際開発研究科・国際開発専攻・准教授	比較国際教育学、アフリカ研究 Ph. D	実践的教育、国際連携、インターンシップ
西川 由紀子	ニシカワ ユキコ	40	大学院国際開発研究科・国際協力専攻・准教授	人間の安全保障、平和構築、 博士(平和学)	実践的教育、フィールドワーク、インターンシップ
坂部 晶子	サカベ ショウコ	42	大学院国際開発研究科・国際コミュニケーション専攻・准教授	社会学、 博士(文学)	基盤教育、フィールドワーク
松田 武雄	マツダ タケオ	60	大学院教育発達科学研究科・教育学専攻・教授	社会教育学・生涯学習論、 博士(教育学)	執行委員会、プログラム運営
西野 節男	ニシノ セツオ	60	大学院教育発達科学研究科・教育学専攻・教授	比較教育学、 博士(教育学)	実践的教育、インターンシップ
高井 次郎	タカイ ジロウ	51	大学院教育発達科学研究科・心理発達科学・教授	社会心理学、 Ph. D	国際連携
服部 美奈	ハットリ ミナ	48	大学院教育発達科学研究科・教育学専攻・准教授	教育人類学・比較教育学、 博士(教育学)	実践的教育、基盤教育
河野 明日香	カノ アスカ	34	大学院教育発達科学研究科・教育学専攻・准教授	社会教育学・生涯学習論、 博士(教育学)	実践的教育、フィールドワーク
河野 荘子	カノ ショウコ	42	大学院教育発達科学研究科・心理発達科学専攻・准教授	非行/犯罪心理学・臨床心理学、 博士(教育学)	基盤教育
川北 一人	カキタ カスヒト	58	大学院生命農学研究科・生物機構機能科学専攻・教授	植物病理学、 博士(農学)	プログラム運営、国際連携、実践的教育
大蔵 聡	オオクラ サトシ	47	大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・教授	家畜繁殖学、 博士(農学)	プログラム運営、実践的教育、フィールドワーク
池田 素子	イケダ モトコ	49	大学院生命農学研究科・生物機構機能科学専攻・准教授	昆虫ウイルス学、 博士(農学)	実践的教育、リーダーシップ教育
中川 弥智子	ナカガワ ミチコ	37	大学院生命農学研究科・生物圏資源学専攻・准教授	森林生態学・熱帯生態学、 博士(理学)	実践的教育、フィールドワーク
松田 二子	マツダ フユコ	35	大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・准教授	家畜繁殖学、 博士(獣医学)	実践的教育、フィールドワーク
犬飼 義明	イヌカイ ヨシアキ	41	農学国際教育協力研究センター・准教授	植物遺伝育種学、 博士(農学)	国際連携、実践的教育、評価
榊原 久孝	サカキハラ ヒサタカ	59	大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	公衆衛生学・健康科学、 博士(医学)	執行委員会、プログラム運営、基盤教育
浅野 みどり	アサノ ミドリ	54	大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	小児看護学、家族看護学、 博士(看護学)	執行委員会、プログラム運営、実践的教育
小寺 吉衛	コデラ ヨシエ	61	大学院医学系研究科・医療技術学専攻・教授	医用放射線画像工学、 博士(工学)	評価、国際連携、フィールドワーク

(機関名:名古屋大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
川村 久美子	カミラ クミコ	52	大学院医学系研究科・医療技術学専攻・准教授	臨床検査学・臨床微生物学、博士(医学)	国際連携、基盤教育、実践的教育
伊藤 恵美	イトウ エミ	52	大学院医学系研究科・リハビリテーション療法学専攻・講師	身体障害の作業量法学、高齢期の認知機能健康、博士(心理)	国際連携、フィールドワーク、インターンシップ
入山 茂美	イリヤマ シゲミ	50	大学院医学系研究科・看護学専攻・准教授	助産学・母性看護学、博士(保健学)	国際連携委員、実践的教育、フィールドワーク
門松 健治	カドマツ ケンジ	55	大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	生化学、(医学)博士	執行委員会、教育研究連携
寺崎 浩子	テラサキ ヒロコ	58	大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	眼科学、博士(医学)	執行委員会、基盤教育、実践的教育、国際連携
浜島 信之	ハマジマ ノブユキ	57	大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	医療行政学、博士(医学)	基盤教育、実践的教育、国際連携
青山 温子	アヤマ アツコ	58	大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	国際保健医療学・公衆衛生学、博士(医学)	基盤教育、実践的教育、国際連携、フィールドワーク
木村 宏	キムラ ヒロシ	52	大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	ウイルス学、博士(医学)	基盤教育、リーダーシップ教育、フィールドワーク
山本 英子	ヤマモト エイコ	42	大学院医学系研究科・総合医学専攻・講師	婦人科腫瘍学、博士(医学)	基盤教育、国際連携、フィールドワーク
榊原 千鶴	サカキハラ チヅル	51	男女共同参画室・准教授	女性教育史、博士(文学)	執行委員会、プログラム運営、リーダーシップ教育
清水 嘉与子	シミズ カヨコ	77	公益財団法人 水と緑の惑星保全機構・会長、国際看護交流協会理事長、日本看護連盟会長、元環境庁長官	看護学、学士(衛生看護学)	リーダーシップ教育
名取 はにわ	ナトリ ハニワ	64	元内閣府男女共同参画局長	ジェンダー法学、修士(政治学)	実践的教育、リーダーシップ教育、評価
佐藤 雅俊	サトウ マサトシ	56	外務省総合外交政策局・国際機関人事センター・室長	国際機関邦人職員増強支援、学士(法学)	実践的教育、国際連携、インターンシップ
萱島 信子	カヤシマ ノブコ	53	国際協力機構(JICA)・人間開発部・部長	教育開発、保健開発、学士(文学)	実践的教育、国際連携、インターンシップ
平林 国彦	ヒラハヤシ ケニヒコ	54	国連児童基金(UNICEF)・東京事務所・代表	子どもの権利・国際開発政策・保健栄養政策、博士(医学)	実践的教育、国際連携、インターンシップ
佐崎 淳子	ササキ ジュンコ		国連人口基金(UNFPA)・東京事務所・所長	人口と開発、リプロダクティブ・ヘルス、ジェンダー平等、MA(国際関係学)、MSc.(人口統計学)	実践的教育、国際連携、インターンシップ
Lourdes N. Pagaran	ルウデス ハガラン	56	世界銀行(World Bank) Senior Operations Officer	Development Effectiveness、Phd	実践的教育、国際連携、インターンシップ
Jose Puppim de Oliveira	ジョゼ プピム ド オliveira	47	国連大学高等研究所・副所長・シニア研究フェロー	持続可能な開発の政治経済学、Ph. D	実践的教育、国際連携
Altantuya Jigjidsuren	アルタンツヤ ジジスレン	46	アジア開発銀行(ADB) Mongol Resident Mission Social Sector Officer	医療行政学、修士(医科学)	プログラム運営、実践的教育、国際連携、フィールドワーク
Araceli O. Balabago	アラセリ オルバゴ	66	フィリピン大学・看護学科長	看護教育、成人看護、Ph. D	国際連携
Kajsa Wid e'n	カイサ ウィデン	64	ルンド大学・男女共同参画室・室長	男女共同参画、学士(文学)	リーダーシップ教育
横山 和子	ヨコヤマ カズコ	58	東洋学園大学大学院現代経営研究科・現代経営学部・教授	人的資源管理、グローバル人材育成、博士(経済学)	実践的教育、国際連携
西澤 真理子	ニシザワ マリコ	44	株式会社リテラシー(Litera Japan Corporation)・代表	リスク政策、リスク・コミュニケーション、Ph. D	実践的教育、リーダーシップ教育
Pheng Vutha	ペン ヴッタ	33	カンボジア王立農業大学・講師	家畜繁殖学、博士(農学)	国際連携、実践的教育、フィールドワーク

(機関名:名古屋大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング(豊かな生活を実現し権利を保障する)をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアのなかで、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食(量的確保と安全)、環境(衛生)、健康(医療、福祉)、社会(脱貧困)、教育(次世代育成)における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、**グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る**。アジアにおける“ウェルビーイング”の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率(日本の約数十倍)などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における**専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家**によって解決すべき課題である。新たな**「統合知」**を目指す本プログラムは、個別の学問領域では解決しえない課題への**グローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する**。

【組織】国際開発、生命農学、医学(医学科・保健学科)、教育発達科学研究科の4研究科、および男女共同参画室、農学国際教育協力研究センターからなる研究教育支援のプラットフォームを設置し、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等でグローバルに活躍する専門家が担当する教育プログラムと、ロールモデルとなる女性教員・専門家らからなるリーダー育成プログラムを実施する。

【プログラム】女子学生を対象とするが、男女共同参画を支える男子学生にも本プログラムへの参加を認める。

学生の成長に応じた M1~D3 の5年間を通じた段階的教育プログラムである。アジア各国連携機関等における「**実践的教育**」、5年間の徹底した「**語学力・発信力強化プログラム**」、4研究科合同での副指導教員制、産官学の各関連分野のエキスパートによる「**リーダーシップ教育**」などにより、高度な研究推進能力に加え、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」の獲得を推進し、グローバル企業・国際開発・協力分野での意思決定を担う女性リーダーを育成する。M1:自己とアジアにおけるウェルビーイング課題の発見を促し、グローバル視点を養うための基盤教育。留学生との合同合宿(All Night Cross-Cultural Talk; M1~D3 毎年実施)、対象国学生との合同チームによる課題発掘をテーマとした海外での**ディスカバリー研修**等。M2:博士課程研究課題設定に向けた基盤教育。研究テーマ設定の為の予備調査・対象地でのネットワーク作りのための**海外プラットホーム研修、ディベート力強化プログラム**等。D1:キャリアプランと博士研究課題研究を確実にするための**海外フィールド調査**(約半年)、**リーダーシップ教育**、国際機関での**インターンシップ**(短期)等。D2:確実な研究能力・実務能力やリーダーシップ力を磨き、研究成果の学会や論文による発表や将来ビジョンの発信力を強化。D3:博士論文完成、キャリア形成支援。D2年次でD論文作成を終え、Qualifying Examinationで優秀な成績を取った学生には、PhD取得後のキャリアパスとなる**国際機関等でのインターンシップ**(約1年間)を実施。**キャリア継続支援**:本籍専攻の教員に加え、1名以上の他研究科教員が学生の指導にあたる。男女共同参画室が各々の学生に適した**女性メンター**をコーディネートする。また、D1-D3女子院生が、M1-M2のプログラムに指導的に参加する**ピアサポート**により、世代を超えた女性リーダーの協力体制を築く。

【評価・質保証】M2からD1への進学時に、本プログラム運営委員会が定めるチームにより、研究課題、語学力習得度、ディベート力、研究成果等を総合評価し、一定の水準に達した学生のみを本プログラムD学生として認める。プログラム修了時(博士学位取得時)に、研究成果、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」獲得状況と研究成果を総合的に判断し、一定の水準に達した学生に本プログラムのディプロマを授与する。

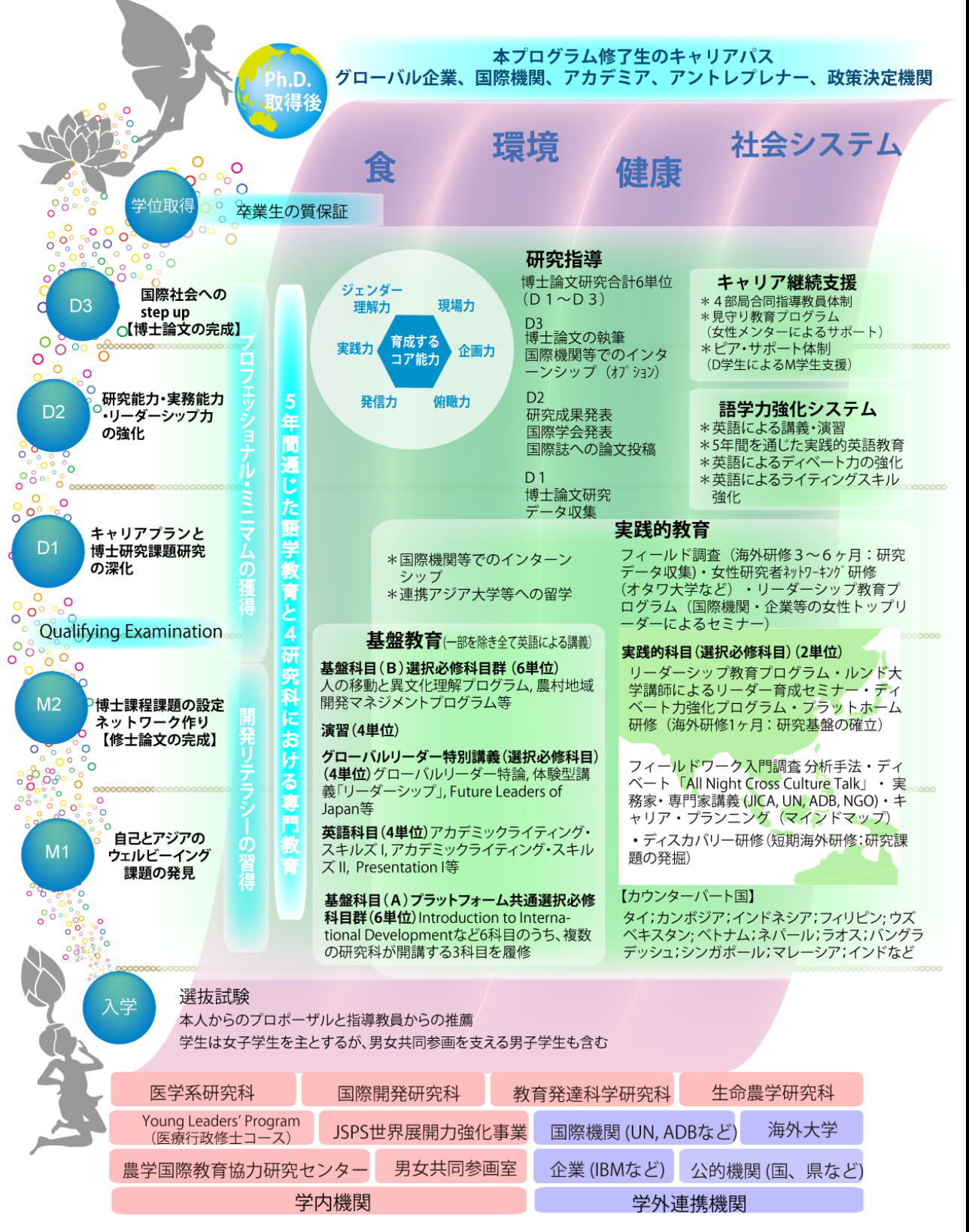
【特色】本プログラムの特色は、高い専門性と国際性と使命感を有する女性リーダーを育成する点である。アジアの多文化共生に資するウェルビーイングの実現のため、食、健康、環境、教育、社会システム分野の「**統合知**」に立脚する女性リーダーを育成し、未だ潜在力にとどまる女子学生を、グローバルに活躍できるリーダーとして育成する点にある。

【優位性】本学の優位性は、男女共同参画推進および国際協力事業の実績にある。10年以上にわたる全学あげでの男女共同参画推進の取り組みにより、国立大学女性教員実数増1位(2012年現在)、国立基幹7大学中女性教員比率1位の実績をもつ。また、担当する4研究科は女性教員・女子学生比率も高く、多くのロールモデルと将来リーダーとなる女子学生を擁する。さらに、アジアをはじめ世界各地に多くの提携校を有し、国際機関、NGO、企業とも広いネットワークを築き、国連とのMOU締結を進めるなど、研究協力、インターンシップ等、豊富な国際交流実績を有していることも優位な点である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム



機 関 名	名古屋大学
プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム
[採択理由]	
<p>本プログラムはアジアをフィールドとして、ウェルビーイングの実現に資するグローバルに活躍する女性リーダーの養成を行う、具体的な課題解決に向けてのプログラムである。</p> <p>ウェルビーイングの実現に資するリーダーは女性に限られるものではないが、アジアにおけるジェンダー格差の実情を考慮すると、女性リーダーの養成に焦点を当てていることは妥当である。</p> <p>また、研究者の養成ではなく、アジアが抱える諸課題の解決に取り組むグローバルリーダーの養成を意図しており、ビジョンが明確かつユニークである点が評価できる。</p> <p>特に、アジア地域における食・健康・環境・社会システムという 4 つの分野の選択は、名古屋大学のこれまでの実績と資源を最大限に生かすものとなっており、実施体制もよく整備され、適切なプログラムになっていると判断される。</p>	